

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0690700117		
法人名	十和建设株式会社		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-5		
自己評価作成日	平成24年 11月 16日	開設年月日	平成24年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づきゆったりとした雰囲気の中で、入居者の方が一人ひとり自分らしい生活ができるように掃除や食事作り、地域行事への参加等役割を持っていただけるよう支援しています。また、敷地内には畑があり、季節の野菜の収穫や花を楽しむことができます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設間もない事業所ではあるが、管理者を中心に様々な課題を前向きに捉え、家族等の意見や運営推進会議での意見をサービスの向上に向け真摯に対応している。事業所の理念を職員が共有し実践するため、職員によるケアの理念を別に作り、目標を掲げ、普段のケアに活かしている。利用者「一人ひとりの生き方を大切に健康で充実した生活」が出来るよう、単なる身体的な介護に留まらず、その人の楽しみ事や出来る事に注視した計画の作成に努力し、馴染みの生活の継続を大切にしている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成24年 12月 12日	評価結果決定日	平成 25年 1月 7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設としての理念、職員が目指すことを事務室や廊下、更衣室に提示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作り、見やすい場所に掲示すると共に、会議等で管理者が話し理念の共有と実践に向け努力している。普段のケアが事業所の理念に沿った形になるよう、職員が話し合いの上「ケアの理念」という具体的な目標を作り実践につなげている。職員は「笑顔」を大切に、利用者の話を良く聞きながら「一人ひとりの生き方」を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や買い物に積極的に参加している。	地域の行事への参加や小学生の訪問、地域のボランティア等地域との関りや交流を大切にしている。また、事業所の行事に地域住民の参加を呼びかけ、更に積極的な交流の機会を確保することに努めている。	事業所の理念や取り組み等を地域に発信し、事業所の力を活かした地域貢献等、地域における認知症介護の基盤となるよう取り組みを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、広報を作成し施設の様子などをお伝えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回会議を行い、施設・入居者の状況について報告し、参加者から意見や助言をいただいている。それを職員全体へ報告し、職員会議にて改善点を検討し向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。メンバーは市職員や町内会長、介護相談員等で構成され、事業所の状況や取り組み等報告されている。また事故発生時の対応等委員から意見が出され、それらを職員会議で話し合いながらサービスの向上に活かしている。開設間もない為、まだ家族代表の参加等に問題があるが、今後も家族の参加が得られるよう継続的な働きかけを続けていくこととしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>介護相談員に月に一度来荘していただき、運営推進会議の委員でもある為、会議や来荘時に教えて頂いている。</p>	<p>介護相談員から利用者の相談等について意見を伺っている。市職員の運営推進会議への出席もあり、事業所の取組みについて理解を得ている。個別の問題については、訪問または電話等で話し合い、意見やアドバイスをいただけるよう協力関係の構築に努力している。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>入居時に身体拘束についてご家族に説明し、状況に応じて相談している。また、ベッドからの転落の危険性のある方や帰宅願望の強い方等、個々に合わせた対応を行っている。</p>	<p>入社時の研修や外部研修を通じて職員に身体拘束の具体的な行為やその弊害等周知を図っている。会議等でヒヤリハットや事故事例等の検討をし、行動障害の原因の分析や対応の話し合いを行っている。利用者の言動を否定せず寄り添いながら見守りを行う事で安全を確保し、安易な拘束や鍵をかけない工夫に取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修などへ参加し、職員会議時の報告会で発表するなどして学習し防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修などにまだ参加できていない為、全職員が理解できているとは言い難い。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分な説明、疑問や不安がないか確認し、わかりやすく伝わるように努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、苦情担当窓口がある事を家族へ周知し、相談できるようになっている。また、要望などは全職員へ会議などで伝え、運営に反映させている。	管理者及び職員は、利用者との普段のかかわりの中から、家族等は面会時等から意見や要望を聞くよう努めている。出された意見には、会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。管理者は今後意見等を表す機会の確保として家族会の開催を検討している。	開設間もない事業所でもあり、意見や要望はサービスの向上に重要であり、家族等とのコミュニケーションは大切である為、より積極的に意見要望を引き出す工夫を期待したい。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケース会議、ミーティング等にて職員の意見等を聞く機会を設け、反映させるように努めている。	/		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、資格手当を設け、給与に反映し環境整備に努めている。	/		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に合った研修に参加し、報告会で全職員も学習し、日々のケアに活かすように努めている。	職員の経歴や力量に応じて外部研修に派遣している。研修に参加した職員には学んだ内容を会議等で報告させることで他の職員にも周知させている。管理者は日々のケアの中で、職員と向き合い必要に応じて指導を行い、働きながらトレーニングできるよう環境の整備を行っている。また、自己評価を取り入れ、職員個々の目標を作り自己啓発と力量の把握に繋げる仕組みづくりを検討している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市介護事業所連絡会・県GH協庄内ブロック等の研修や交流会に積極的に参加している。	鶴岡市介護事業所連絡会を通じ、地域の介護事業所との連携や情報交換の場を持っている。グループホーム協議会を通じて研修会や交換研修等意見交換の機会を確保している。管理者も交流の重要性を理解し積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人に生活されてきた環境、様子の聞き取りや記録をもとに、希望や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会、通院などで来荘の際は、ご家族と会話し希望・要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、管理者、ケアマネ、担当者間で話し合った支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者の方と一緒に楽しみ、その方のできる事を見つけていくようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族になるべく定期受診をお願いし、状態を情報提供書に詳しく記入・説明し、情報共有している。また、ご家族との連絡を密にし、共に支えていく関係を築くように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚の方など面会に来て交流していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性などを尊重し他者との良い関係が築けるよう、状況に合わせて焦ることなく日々の活動や行事に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入居中の写真を送付したり、相談を受ける際は支援できるように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを第一に家族の意向も取り入れ、状況に応じながら対応している。	センター方式を一部取り入れアセスメントを行っている。普段の会話や行動、しぐさ等、また家族からの暮らし方や習慣など情報を得ながら思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録を参照したり、ご本人・ご家族から来荘時に聞き取り、暮らし方や習慣などを参考にサービス利用の経過把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や日誌を活用しながら、一日の過ごし方や心身状態を把握し、個人にあった好きな仕事・できることをして頂いている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望を聞き、担当職員・他職員より意見等を出してもらいながら定期的に見直しを行っており、ケース会議を行い問題解決に努め介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、3か月毎に見直しを行っている。カンファレンスで、担当職員の意見や家族からの意見等を踏まえながら、「その人らしく生活」出来る様、役割や楽しみ事等を加え、一人ひとり詳細な計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の気づき等を報告し合い、ケース記録に記入し職員全体で共有している。また、ケアに活かせるように会議などで検討している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議などを行っている。毎月、介護相談員の受け入れも行っており、訪問時は楽しそうに過ごされている。また、地域の子供会の協力を得たり、地域の祭りに参加している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>通院時、往診時に情報提供書を作成し、医師からの指示等をご家族、職員間で共有している。</p>	<p>利用前のかかりつけ医の継続を大切にしている。原則通院は家族にお願いしているが、状況に応じて事業所も通院支援を行っている。受診時、日常の身体・精神状況やバイタルを記載した「情報提供書」を利用し、医師、家族、事業所とが情報を共有し適切な医療を受けることが出来るよう支援している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況報告、相談しその指示に従い健康管理に全職員が努めている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医や協力医療機関、看護師と相談し、情報交換を行い関係づくりに努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し、重度化した場合もご本人、ご家族、医療機関と相談、連携を図りながら支援に取り組んでいる。	利用開始時に重度化や終末期についての方針等話し合いを行っている。また、状況に応じ繰り返し話し合い段階的な合意を得られるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し職員に対して理解と周知を図り、すぐに対応できる場所に置き看護師の指示を仰いでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防署、地域消防団に協力を得て訓練を実施。また、月に一回の自主訓練を実施している。	年2回、消防署や地域消防団との避難訓練を実施している。地域の方の参加も得られている。マニュアルにより職員に周知を図ると共に、毎月自主訓練も行い、万一の際、安全に避難できるように点検、確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりがここに合わせた言葉かけや接し方を心がけている。会議などで確認、話し合いの機会を設けている。	理念に掲げるとおり「一人ひとりの生活を大切にすること」で人格の尊重に努めている。管理者及び職員は親しみのあまり不適切な言葉かけや対応が無いよう普段から職員同士注意しあい、都度話し合いの場を設けながらケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けや接し方を心がけ、ご本人の要望等を傾聴できるよう、落ち着いて話せる環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望等、職員間で情報共有し個々の意向を尊重できるように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族の希望に合わせ出張サービス等を利用している。服装もご本人の意向に合わせてながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査を行っている。また、職員と一緒に食事の準備や片づけを、個々の能力や状況に合わせて支援できるように心がけている。	趣向調査結果や利用者との普段のかかわりの中から得た情報を基に利用者の好みのものになるような献立を作っている。3食とも事業所内で調理されているため、買い物や、下ごしらえ、片付け等利用者にも積極的に関わっていただいている。また会話を楽しみながら家庭的な食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態を把握し、個々に合った食事量、献立を提供している。体重増加が認められる方には、主食の摂取量を調整している。また水分摂取量も個々に合わせ、声掛け対応し調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを促し口腔ケアの徹底を行っている。自力で行っていただくように支援し、最後に確認するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しタイミングやその方の様子を見ながら誘導している。他者と使用時重ならないように見守り、支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、適時の声かけを行いながら排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者毎にプランに位置づけ一人ひとり対応しながら評価を繰り返し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用、個々の状況を把握し、下剤使用だけでなくヨーグルトや繊維質の多い献立作成をして予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望を声掛けにより把握し、個々に合わせた入浴(時間や回数)ができるように支援している。	入浴の曜日や時間に決まりは特に設けていないため、午前中入浴される方もいる。無理強いをせず、本人の希望に応じ自由に入浴が楽しめるよう配慮しつつ、清潔の保持にも注意している。季節に応じて変わり湯等を行い入浴自体を楽しむことができるよう工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までや現在の生活習慣、過ごし方を把握し、日中適度な運動や趣味活動などを行い、夜間はゆっくり休んでいただくように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を確認し、職員同士でチェックし誤薬等のないように、内服まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や経験を活かしてできる事(皿拭き、洗濯たたみ、裁縫等)を見守り、支援している。またレクリエーションや行事等も参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑の野菜を収穫したり、ドライブ、散歩などをして気分転換を図るようにしている。	行事としての外出、天候を見ながらのドライブ、買い物、散歩、畑仕事等戸外に出かける機会を設けている。個人的な外出支援にも対応している。また事業所内の敷地を利用した外気浴や花火大会といった外出支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人と同行して買い物へ行ったり、管理が難しい方はご家族と連携しながらトラブルのないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙の投函、ご家族等からの電話の取次ぎ等、ご家族の協力を得てご本人の希望に合わせ支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の整備を心がけ、一日に数回の清掃を行い清潔保持をしている。また、季節に応じて入居者手作りの装飾や花を飾り、季節感のある空間づくりをしている。	居間、食堂は利用者が心地よく過ごせるように床暖房や加湿器により温度湿度が調整されている。壁の飾り付けや、思い出の写真が派手すぎず落ち着いた雰囲気と季節感を演出している。また対面式のキッチンも生活感のある家庭的な雰囲気を作り出すことに役立っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり、自由にテレビを見たり他入居者と談笑などができるスペースを作っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンスを持ち込む事もできる。馴染みのものや家族の写真などを飾り、居心地のいいその人らしく過ごせるように配慮している。	利用前の生活環境とのギャップを少なくする為、馴染みのもの等を自由に持ち込んでもらっている。利用者それぞれが好みの飾り付けや配置をしながら居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、洗面台の棚、靴棚などに名前をつけわかりやすいようにしている。またトイレの場所がわかりやすいように、張り紙をして混乱を招かないよう工夫している。			